

# 平成27年度八重山群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

## I 2月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	40	20
平年並	40	40	30
低い(少ない)	20	20	50

(平成28年1月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	19.1	21.6	16.9	139.4	82.1

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

## II 2月の発生予報および防除上の注意事項

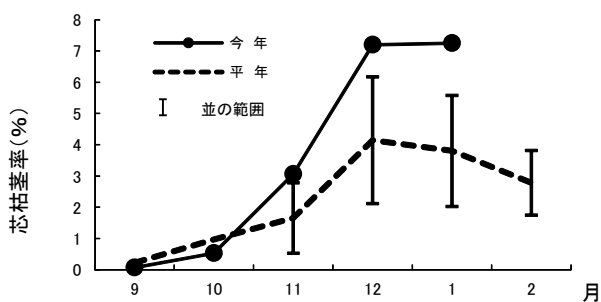
### 1 さとうきび

#### (1) カンシャシクイハマキ

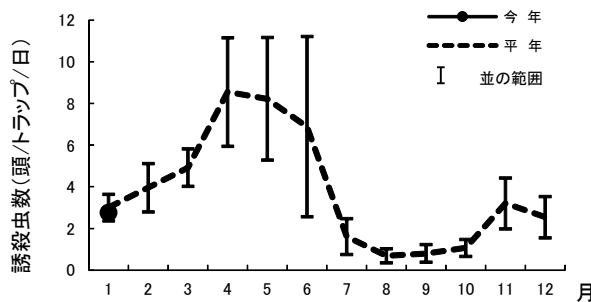
発生程度 : やや多

予報の根拠

- 1月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は7.3%(前年9.1%、平年3.8%)と平年よりやや高かった。
- 1月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.8頭(前年1.9頭、平年3.0頭)と平年並であった。
- 芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち50%がカンシャシクイハマキであった。



新植夏植ほ場における芯枯茎率の推移



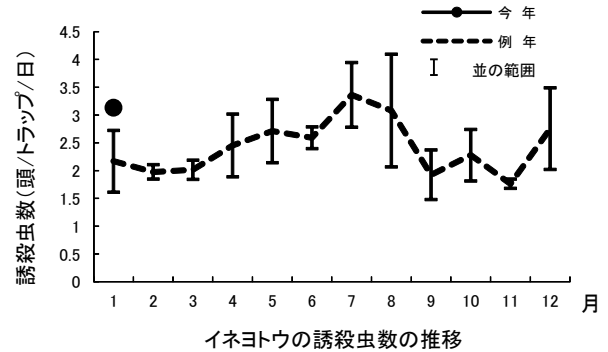
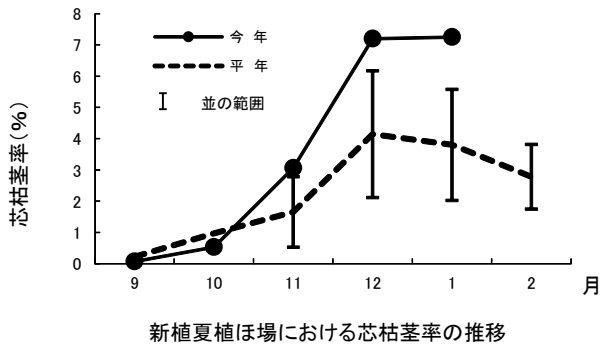
カンシャシクイハマキの誘殺虫数の推移

#### <防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉梢部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等による溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 平成27年度病害虫発生予報第1号(平成27年4月30日付)コラム参照。

(2) イネヨトウ  
 発生程度 : やや多  
 予報の根拠

- a 1月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は7.3%(前年9.1%、平年3.8%)と平年よりやや高かった。
- b 1月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.1頭(前年1.1頭、例年2.2頭)と例年よりやや多かった。
- c 切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち50%がイネヨトウであった。



<防除上注意すべき事項>

- a 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉梢部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間には散布し降雨や散水等による溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成27年度病害虫発生予報第1号(平成27年4月30日付)コラム参照。
- g 平成27年度病害虫発生予報第6号(平成27年8月27日付)コラム参照。

## 2 マンゴー

- チャノキイロアザミウマの防除対策
  - a 黄色粘着トラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.2頭(前年0.1頭未満、平年0.1頭未満)と平年より多かった。
  - b 不用な新葉は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
  - c 新梢をよく観察し、初期防除に努める。
  - d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
  - e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
  - f 平成27年度病害虫発生予報第5号(平成27年7月27日付)コラム参照。

## 3 にがうり(施設)

- うどんこ病の防除対策
  - a 1月中旬の調査の結果、うどんこ病の発病葉率は19.6%(前年12.0%)であった。
  - b 発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
  - c 除去した葉はほ場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
  - d 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
  - a 1月中旬の調査の結果、つる先当たり成虫数は0.1頭(前年0頭)であった。
  - b 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除去する。
  - c 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の侵入を防ぐ。
  - d 摘心や摘葉後の残さは、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密封し、施設外に持ち出し処分する。
  - e 平成27年度病害虫発生予察注意報第4号(平成28年1月29日付)参照。